

教育ソフト「SimError 先取喚呼編（反復型）」を開発しました

2026年4月21日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、これまでに作業者のヒューマンエラー防止を目的とした教育ソフト「SimError 指差喚呼編」、「SimError エラー教育編」を開発しています。

今回、その第3弾として、「先取喚呼」について、体験的に学ぶことができる「SimError 先取喚呼編（反復型）」（以下、本ソフトという。）を開発しましたのでお知らせします。

1. 開発の背景

- ・ 鉄道では作業従事者の確認や作業の「し忘れ」が重大事故につながる可能性があり、対策が必要です。
- ・ 指差喚呼は「確認ミス」の防止には有効ですが、「し忘れ」対策の点で限界があります。

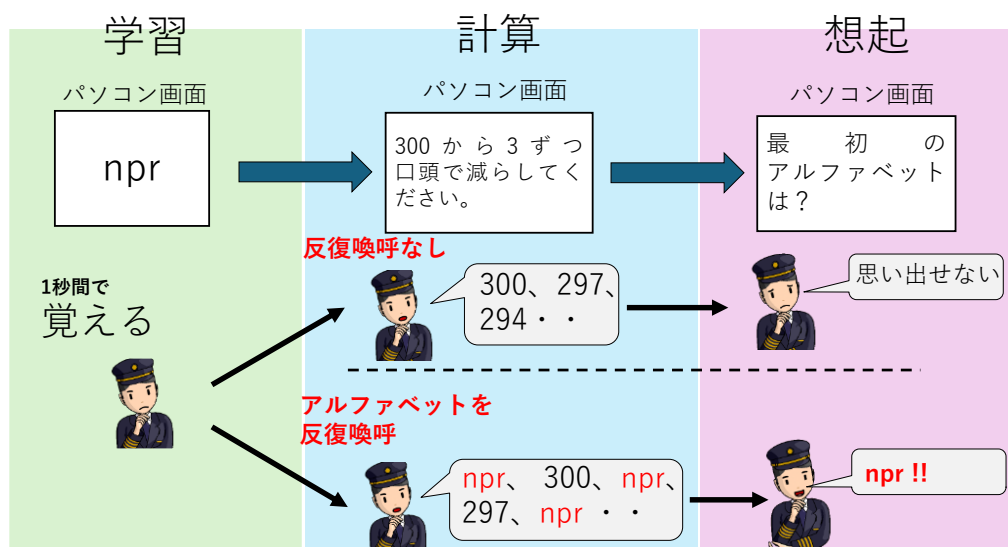
そこで、鉄道総研では、特別な道具を使わず誰でも実施できる方法として先取喚呼（反復型）を提案し、教育ソフトを開発しました。

2. 先取喚呼とは

先取喚呼は「し忘れ」してはいけない予定や行動を口頭で喚呼する方法で、先取喚呼（反復型）は、これを繰り返し喚呼し続ける手法です。人は新しい事を記憶すると以前の予定を忘れやすい性質があります。反復して先取喚呼をすることで意識上に保持し続けることにより、他の事に注意がそれでも予定は埋もれず、「し忘れ」防止につながります。

3. ソフト活用法

- (1) 本ソフトでは、PCを利用して、短時間の課題を通じて先取喚呼（反復型）の効果を体感できます。例えば、アルファベットを記憶する課題（図1）で、先取喚呼（反復型）を実施した場合としない場合の正解率を比較すると、多くの場合、実施した方が成績は向上します。この正解率はグラフで提示され、効果を直感的に理解できます。また、先取喚呼（反復型）の効果を体感できることで、実作業で活用する力や「実践してみよう」という動機付けを高めることができます（図2）。



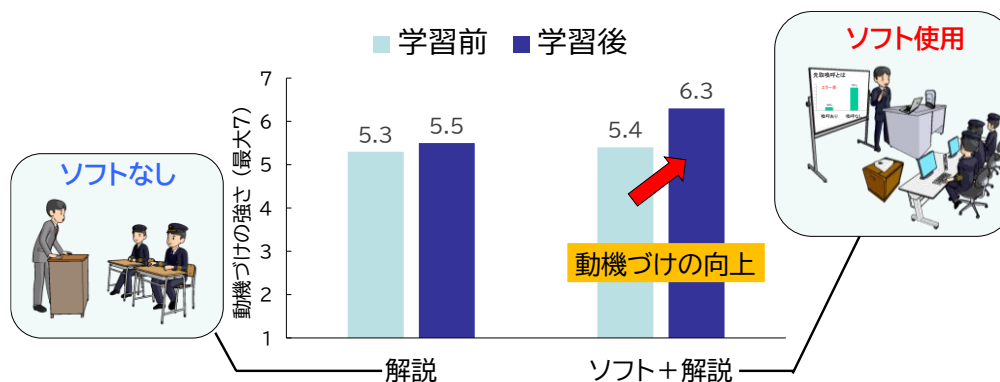


図2 本ソフトによる先取喚呼（反復型）の動機づけ向上効果

- (2) 本ソフトは通信機能を備えており、講師側の操作によって受講者の画面を一括して制御したり、課題における成績を即時に集計したりすることができます。これにより個人での学習も集合型研修においても活用できます。

4. その他

- (1) 本ソフトは株式会社テスより販売しております。
- (2) 本ソフトはMicrosoft Windows 11 搭載パソコンで使用できます。
- (3) 本ソフトの学習方法は特許登録されています（特許第 7330647 号）。
- (4) 「SimError」は、登録商標です（第 5765666 号）。
- (5) 本ソフトは、2026年5月27日から29日に、インテックス大阪で開催される「第2回鉄道技術展・大阪2026」で紹介予定です。

（報道機関問い合わせ先）

公益財団法人鉄道総合技術研究所総務部 広報 TEL：042-573-7219